

令和8年度7月定例教育委員会議事録

【日時】

令和8年7月17日（金）

開会 午後1時00分

閉会 午後3時00分

【会場】

辰野町民会館 104 学習室

【出席者】

11 名

（辰野町教育委員会）

教育長	宮澤 和徳
教育長代理	飯澤 隆
教育委員	垣内 由佳
教育委員	関 政彦
教育委員	萩原 多恵子

（事務局関係）

学びの支援課長	菅沼 隆之
学校支援課長	竹村 智博
学校支援課長補佐	赤羽 徳幸
学校教育係長	唐澤 真也
教育総務係	中沢 大輔
社会教育係	萩野 奈実

【傍聴者】

0 名

【次第】

1 議事

- (1) 【非公開】区域外就学について（辰中→両小野中へ）
- (2) 【非公開】準要保護の認定について（追加分）
- (3) 【非公開】通級指導教室への通級判断について
- (4) 【非公開】就学の判断について

2 協議

- (1) 【非公開】学校の様子及び運営上の諸課題
- (2) 町内小・中学校1学期の反省
- (3) 小中学校あり方について 教職員への意見集約の結果
- (4) 教育ビジョンの検討
- (5) 町教育委員会研修視察について
- (6) その他

3 報告事項

- (1) 各学校の夏休みの生活
- (2) 夏休み中の子供に係る講座・イベント等（教育委員会・公民館）
- (3) 夏休み中の学校関係工事
- (4) 二十歳のつどいへの参加
- (5) その他

○開会

1 開会宣言

2 会期の決定

- ・会期については1日とする。全員異議なし。

3 議事録の承認

- ・承認。

4 宮澤教育長挨拶

こんにちは。

今日は、通常の開始時刻を30分ほど早めさせていただきました。また、終了時刻も、15時を目途にと考えておりますので、よろしくお願いします。

今週は連日猛暑でした。14日（火）は、辰野町も35.0℃の猛暑日を記録、翌15日は34.5℃と猛暑日一歩手前を記録し、さらに全県に熱中症警戒アラートも発出されました。大変な猛暑ですが、まだ梅雨明けしていません。今後梅雨明けしたらどんな夏になるのでしょうか。農作物は、特に米はどうなるのでしょうか。

さて今日、辰野中学校2年生が西駒ヶ岳登山に出かけました。昼からの雨が予想されており、昨日から今朝まで実施の可否を検討したようですが、日程を早めながら実施すると決めました。朝6時の連絡では、123名の参加者、欠席者は13名で、前々から不参加の意向がある生徒がほとんど、当日の欠席者は1名とのことでした。午前10時半ころ学校に電話が入ったそうで、ほぼ時間通り宝剣山荘手前を歩いていて、一人高山病か体調を崩して下山させるということでした。ロープウェイを下って千畳敷では天気も良く、山々が美しく、さらに今年の高山植物は当たり年ということで、例年になく見事な花に皆感動していたようです。果たしてこの時間（13時）はどうでしょうか。

町内小中学校は、いよいよ来週23日木曜日に辰野南小が1学期終業式を、翌24日金曜日は、辰野西小、辰野中、両小野小が終業式を迎えます。辰野東小は、2学期制を取っている関係から終業式という言葉は使いませんが、夏休みに入るぞという式を行うようです。町内小中学校は、翌24日あるいは25日から、子供たちが楽しみにしている夏休みに入ります。子供たちにとって、長い夏休み、一人一人普段は体験できないようなことができる夏休みになればと思います。

7月1日には、上伊那市町村教育委員会連絡協議会の研修総会が、駒ヶ根市で開催、委員の皆さんにも参加いただきました。令和10年、長野県で開催される国スポでは、駒ヶ根市が飯島町と共にホッケー会場になることから、前半は、なぜホッケーなのか、駒ヶ根市とホッケーとの関わりについてのお話をお聞きし、後半はホッケー体験をし

ました。私にとっては、初めての体験であり、なかなか面白いなと思いましたが、正式のコートで行うとすれば、ものすごい運動量、私には無理だなとも思いました。

さて、今日の定例教育委員会では、区域外就学について、準要保護援助費の認定、通級判断・就学の判断について、協議として、学校の様子、小中学校1学期の反省、小中学校あり方検討委員会から先生方に対して行った「小中学校の集約について」の意見集約等になります。

それではよろしくお願いします。

5 議事

(1) 【非公開】区域外就学について

- ・唐澤学校教育係長より説明。承認。

(2) 【非公開】準要保護の認定について

- ・唐澤学校教育係長より説明。承認。

(3) 【非公開】通級指導教室への通級判断について

- ・教育総務係中沢より説明。承認。

(4) 【非公開】就学の判断について

- ・教育総務係中沢より説明。承認。

6 協議

(1) 【非公開】学校の様子及び運営上の諸課題

- ・宮澤教育長より説明。
- ・資料として「学校の様子及び運営上の諸課題」、「7月校長会資料」を提示。

(2) 町内小・中学校1学期の反省

- ・宮澤教育長より説明。
- ・資料として「令和8年度 1学期教育課程等の反省」を提示。

【辰野西小】

- ① (校長としての反省) 校長だよりや個別の会話で「子供観」の更新に繋げ、「誰もが認められる楽しい学校」を目指してきた。折に触れて働きかけを行ってきたが、なかなか実践に結びつける事が難しい先生もいたとの事。「楽しい学校、授業づくりの根幹」として、「問を持ち」「追及する子」を目指す授業づくりを実践する職員は多いと感じる。研究主任を中心に授業ミーティン

グを行っており、昨年度より意欲的に取り組んでいる。

- ② （教育課程、生徒指導・支援）「ゆとりの時間」は子供と触れ合う時間として
いる職員も多い。不登校児については担任一人が抱え困らないよう複数の職
員が関わり進めている。子供の自己肯定感を育むよう「勇気づけ」「言葉がけ」
について職員への声掛けを継続していく。生徒指導、特に児童間のトラブル
は即対応している。
- ③ （先生方の意識改革、資質向上）非違行為防止について適宜話をしてきた。
スムーズな園小接続のために、研修係の先生と協力し保育園での研修を計画
している。
- ④ （２学期の方向）子供たちの思いを大切にしたい見学や体験となるよう、学年
行事を工夫して実践したい。地域に出て学習を展開できるよう、呼びかけや
後押しをしていく。スタートプログラムの作成や 40 分授業の日課案作成・施
行など早めから取り組む。

【辰野東小】

- ① （校長としての願い）子供が伸び伸びと思いを表出できるよう、まずは校長
から子供の声を拾うことを大事にしてきた。「できた」「わかった」というス
モールステップを積み重ね、「明日も行きたくなる学校」「楽しい学校」を目
指す。総合的な学習の時間、学力向上の２部会の校内研修会を実施。職員間、
保護者と職員との潤滑油になれるよう、対話の機会を増やしている。保護者
と懇談することで安心感を持っていただく。職員に関しては、一生懸命な先
生も多いが、様々な課題も見えてきた。
- ② （教育課程、生徒指導・支援）初めて教職に就いた担任が悩みながら準備を
重ねた臨海学習だったが、子供たちは自分たちで声を掛け合いながら取り組
んだ。担任のさらなる成長、自分の思いを自信をもって伝えられる子供たち
の育成を行ってほしい。
- ③ （先生方への意識改革、資質向上に向けて）担任が強い指導を行うという訴
えがあり、該当児童と学舎担当、校長で懇談を持ち、校長が担任を指導。担
任は学校の軸になっていることを伝えながら意識改革を図りたい。特別支援
学級と原級との連携がうまくいかないところがある。改善の一環として、中
学校進学に向けた本人、保護者の意向と、特支学級の支援にずれがあること
に関し、校長より対応の指示を出した。各先生に思いがあり、一生懸命だが
こだわりも強い。否定せずうまく回しながら指導観の変遷について伝えてい
く。上伊那教育研究会Ⅲに向け、全職員で学び、子供たちが「あさひの時間」
を楽しみに登校できる雰囲気を作る。
- ④ （不登校生の状況及び支援）状況は変わらず。
- ⑤ （２学期の方向）子供に前期のまとめと後期のスタートを意識させ、自分の

ゴールに向かってできることは何か、小さな挑戦の大切さなどを校長講話で行う。児童の目標や自ら企画することを校長がサポートする。各教科の見方・考え方を働かせられるような授業を目指す。特別支援学級の支援体制を整え、円滑な指導・支援をつなげる。上伊那教育研究会Ⅲに向け、研修を積み指導観の変遷につなげる。職員との対話を重視し、次のキャリアステージを見据えた指導、助言を行う。

【辰野南小】

- ① （校長としての願い・反省）「わくわく 挑戦 南小」を行動目標として、職員、子供、保護者に伝え具現化を図ってきた。特別支援教育的視点を大切に、できる状況作り、環境を整える。
- ② （教育課程、生徒指導・支援）サテライト教室開設。「なのはな」学級開設。ぼたる祭り今年是不参加だったが、地域の学校として再検討。育ちの森は子供主体の行事になるように改善を図りたい。生活科・総合的な学習の時間は、子供がわくわくでき、自己選択・自己実現ができる場を仲間と協力しながら積み重ねていく活動にする。
- ③ （先生方の意識改革、資質向上）担任は、学校での様子、出来事など家庭と確実に連絡を取っている。「子供と共につくる授業」問いを共にする教師のあり方を手掛かりに、子供観を磨く。「教える者」から「共に学ぶもの」へ授業観を転換し、「問い」を共にする教師のあり方を視点にする。
- ④ （2学期の方向）生活科、総合的な学習の時間の後押し、「わかった」「できた」といえる授業のあり方を職員みんなで探り充実を図るとともに、わからない、あきらめの子たちをどのように応援していくか検討していく。来年度50周年を迎えるにあたり、ピアニストの平澤さんとのつながり、記念となる曲作りに取り組む。余白の時間の試行を、思考から始め段階を経て進める。

【辰野中】

- ① （校長としての願い・反省）体調を崩す職員が出ないように、コミュニケーションを大切に。昨年度の反省を受け、教頭と校長の連絡を密に、事務職を加えた朝の打ち合わせを実施。様々な支援を受けながらも、最終的には生徒自ら考え行動を起こすことができるように、職員は機会を多く作って欲しい。職員側からは前向きな提案が出されるようになってきているため、生徒の意欲付け、意識づけにつなげることを期待。
- ② （教育課程、生徒指導・支援）「問いから問いにつながる授業」を合言葉に、生徒の心が動くような問いかけや発問、授業展開を工夫している。次の授業につなげるよう努力する職員も多く出始めている。学校・学年行事はおおむね順調に執行できているが、行事の内容変更にあたっては、細部まで検討す

る必要がある。1学期1年生全クラスの数学で少人数学習が展開できた。2学期は2年生での展開を予定。

- ③（先生方の意識改革、資質向上）生徒指導対応は、昨年度の反省が生かされ教務会や職員会にて具体的な指導の方向が共有されるようになっている。一方学年や学級における初動対応や日々の学校生活での指導・支援の意図が、生徒や保護者に十分伝わらない場面があるのではないかな。
- ④（不登校生の状況及び支援）長期にわたる不登校生の中には、担任との折り合いが悪い生徒や家庭があるため、教頭が間に入り、よい関係づくりをしようと努力している。
- ⑤（2学期の方向）地域とつながり、地域へ出る、地域と交流する機会を大事にする。1・2年生中心に過去の活動を参考に自ら活動を生み出そうとする動きもある。部活動や生徒会が徐々に2年生に引き継がれていく。3年生は櫛櫛祭を中心に、満足いく充実感を持った締めくくりをし、引継ぎをしてもらい、1・2年生は先輩の姿を大切にしつつ、新たな気持ちで思いきって自分たちの願いを大切に活動を進めて欲しい。「生徒から発する活動」は引き続き大切にしていける。制服見直しは、職員側で方向性を示し、生徒代表も加え、具体的な形となるよう進めていく。

< A 委員 >

中学校の数学の少人数学習について、3年生になるとなくなってしまうため、3年生でもやっていただきたかった。

< 宮澤教育長 >

学年ではなく、單元ごとに必要になってくるのではないかな。臨機応変に対応できたらと思う。

(3) 小中学校あり方について 教職員への意見集約の結果

- ・宮澤教育長、竹村学校支援課長より説明。
- ・資料として「辰野町立小・中学校のあり方について」「教職員アンケートまとめ」「概要版 辰野町立小・中学校あり方に関する提言」を提示。
- ・現在小中学生にアンケートを取っている。提言書のままでは子供たちも答えることが困難と思われるので、「今の学校は楽しいですか」「もっと楽しくするにはどうしたらいいですか」等の視点から質問している。
- ・小学校1～3年生までは紙ベース、4年生以上から中学生まではタブレットでの回答にしている。1学期中の回答をお願いしているので、集まったところで

まとめたい。

- ・概要版の提言書に関して、広報たつの8月号に折り込む予定。

(4) 教育ビジョンの検討

- ・宮澤教育長より説明。
- ・資料として「辰野町小中一貫教育ビジョン（素々案）」を提示。

(5) 町教育委員会研修視察について

- ・宮澤教育長より説明。
- ・資料として「静岡県吉田町全教職員研修会（生成 AI パイロット校事業）の御案内（通知）」を提示。

7 報告事項

(1) 各学校の夏休みの生活

- ・昨年から変更点が無いため、資料提供無し。
- ・プール開放は南小学校のみ。東小はリュシオ中心に学校を数日間使用する。

(2) 夏休み中の子供に係る講座・イベント等（教育委員会、公民館）

- ・宮澤教育長、菅沼学びの支援課長より説明。
- ・資料として「たつのとしょかんサマーライブラリー」「クマを知って自分を守る」「夏休み親子映画会」を提示。

(3) 夏休み中の学校関係工事

- ・竹村学校支援課長より説明。

(4) 二十歳のつどいへの参加

- ・菅沼学びの支援課長より説明。

(5) その他

- ・菅沼学びの支援課長より辰野美術館「食×美展」について説明。
- ・竹村学校支援課長より「危機管理マニュアルにおけるクマ対策の追加」「救助袋設置・使い方の確認」について説明。
- ・教育総務係中沢より「幼保小中学校合同研修会」について説明。

8 閉会